

Economic Indicators

発表日:2019年5月14日(火)

2019年1-3月期GDP予測(最終版)

～前期比年率▲0.2%と小幅マイナス成長を予想～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

5月20日に公表される2019年1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率▲0.2%（前期比▲0.0%）と予測する。4月26日の段階では前期比年率+0.1%（前期比+0.0%）と、辛うじてマイナス成長は避けられると予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、マイナス成長予測に変更する。

本日公表された3月分の国際収支統計では、筆者の想定よりも輸出入ともサービスを中心に下振れたことから、実質輸出の予測値を前期比▲2.5%（従来予測値：同▲1.7%）に、実質輸入の予測値を前期比▲4.5%（従来予測値：同▲3.9%）へとそれぞれ下方修正した。輸出入とも下方修正だが、輸出の下振れ幅の方が大きかったことから、外需寄与度は前期比年率+1.5%Ptと、従来予測値（+1.6%Pt）から僅かに下方修正となる。加えて、3月分の家計調査と家計消費状況調査の結果が筆者の想定を下振れたことから、個人消費の予測値を前期比▲0.2%（従来予測値：同▲0.1%）に若干引き下げた。これらの結果、実質GDPの予測値は前期比年率▲0.2%と、従来予測値（同+0.1%）から下方修正となる。

小幅マイナス成長が予想される1-3月期のGDPだが、今回は見た目以上に内容が悪くなりそうだ。輸出が大幅マイナスになることに加え、個人消費、設備投資も弱く、主要どころの需要項目が軒並み弱い結果になるとみられる。こうしたなかでも小幅なマイナス成長にとどまるとみられる理由は、輸入の減少に尽きる。輸入が前期比▲4.5%と、輸出以上に大きな落ち込みとなることで、外需寄与度は前期比年率で+1.5%Ptも成長率を押し上げる見込みである。輸入の減少によって成長率は押し上げられるが、これは内需の弱さの反映という面もあるため、決して喜べるものではない。表面上の数字以上に足元の景気の弱さを示す内容になるだろう。

（需要項目ごとの予測値の解説は、「2019年1-3月期GDP（1次速報）予測」（4月26日発行）をご参照ください）

2019年1-3月期GDP予測

	(%)
実質GDP	▲ 0.0
(前期比年率)	▲ 0.2
内需寄与度	▲ 0.4
外需寄与度	0.4
民間最終消費支出	▲ 0.2
民間住宅	0.8
民間企業設備	▲ 1.8
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.1
政府最終消費支出	0.1
公的固定資本形成	1.4
財貨・サービスの輸出	▲ 2.5
財貨・サービスの輸入	▲ 4.5
名目GDP	0.4
(前期比年率)	1.8

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。